

「安倍晋三首相の辞任」

2020年08月31日

安倍晋三首相は28日の記者会見で、辞意を表明し、任期前に辞任することになった。残念である。難病の潰瘍性大腸炎の持病が悪化し辞任することになり、国民の力（野党を含む）で辞任に追い込めなったことが残念である。長い7年8ヶ月であった。完治は難しいそうだが、良い治療を受け、回復することを期待する。

辞意会見をテレビで観た。拉致、北方領土、憲法改正の3点を解決できなかったこととして上げていた。拉致問題は、水面下で諸々の交渉があったらしいが、強行姿勢を変えないのでは、一歩も前に進まないだろうと皆が思ったのではないか。中国との関係も、国交回復してはじめて、残留孤児らが行き来することができるようになった。「北風」ではなく、「太陽」を当てることを考えない限り、拉致問題は解決しないのではないか。北方領土問題は無残である。4島一括返還から、2島返還に妥協したが、ロシアは返還する意思は全くない。返還したら、米国に追従する日本だから、米軍基地が作られると恐れるのは、ロシア人でなくても想像できる。ロシアの憲法でも、領土は動かないと規定している。外交に強い安倍と言われたが、成功した政策はない。憲法改正は、安倍首相の悲願であったようだが、国民は戦争の痛手を記憶し、常に半数以上が憲法擁護の声を上げて来た。私は、現行の平和憲法が戦後の平和を維持してきたし、平和憲法は人類の希望であると信じ、「9条、守れ」の市民運動に参画してきた。これからも変わりはない。憲法は日本の国の在り方と国民の尊厳を守る基本法なので、一部の人の扇動で動かしてならない。安倍政権は、秘密保護法、安保関連法、共謀罪法を強行採決し、国の在り方を変えてしまった。

安倍首相は、株価の上昇と雇用の拡大をもたらしたアベノミクスを自賛していた。株価は日銀による天井知らずの緩和政策と国民年金で株を買って上昇したのではないか。株の所有者は利益を得たであろう。大企業は株主の顔ばかり見ている、国民のためにある企業とは認識していない。社内留保より、労働者の賃金を上げることが先決ではないか。また、雇用も増えたが、企業はいつでも解雇できる非正規労働者を作り出した。生活が豊かになった実感がなく、貧富の格差を生み出した。今回のコロナ禍で、弱い立場にある人々は困窮に喘いでいる。日本人は勤勉である。勤勉に働いても、自分の家庭が持てないようでは、政治不在と言わなければならない。経済は「経世済民」、世を治め、民を救うことである。

私は安倍首相の政治姿勢に関し、二つの疑義を持っている。一つは、同じ考えの人を厚遇するが、違う人には排他的な態度を取ることである。森友、加計、桜問題は、友だち優先、そのためには権力をも行使する。気の小さい人は、そういう態度を取るが、国民は多様である。多様性を認め、異なる立場の人、違う主張をする人に聞き、共に社会を担うように与していくことが大事ではないか。二つ目は、言葉の意味と力を喪失させたことである。人間は言葉を用い、交流し、信頼関係を築いていく。安倍首相は、耳ざわりのよいキャッチフレーズを次々に打ち出し、会見では、美辞麗句を並べるが、その内実は真逆に動いている。オリンピック・パラリンピックを招致するために、原発事故を「アンダーコントロール」と言ったのには驚愕した。核廃絶を口先では言うが、実現のために、何の手立てもしていないどころか、後ろ向きである。閣僚たちの引責辞任に際し、任命した自分に責任があると言いながら、何の責任も取っていない。言葉に不信感を持つようになると、国民の間に深い虚無感が増幅し、政治不信が醸成されていく。若者が投票に行かないのは、政治的危機である。良い指導者を持たない国民は不幸である。そして、良い指導者を持つかどうかは、国民に責任があることを、しっかり自覚したい。